

入試情報

入 試 日	願 書 提 出	合 格 発 表	内 申 点 計 算 方 法
■学力検査: B:3/7(月) A:3/10(木)	2/23(火) ~24(水)	3/17(木)	評定得点 Max =90 (調査書の9教科の評定合計を2倍) ※ただし「調査書重視型」は更に1.5倍
■面接・特色検査: B:3/8(月) A:3/11(木)			

教育のプロ
トライさん



傾向

受験者全員が、内申点+学力検査+面接を受ける。専門によっては特色検査が加えられる。調査書対学力検査の比率は「学力検査重視型」「均等型」「調査重視型」の3種類あり、学校によって異なる。平成29年度から、入試制度や日程が大幅に変更されるので注意が必要。

面接では、1. 入学希望理由、2. 中学校での教科等に対する学習意欲、3. 中学3年間での教科等以外の活動に対する意欲を観点としている。これに加えて学校ごとの観点がある場合もある。

科目別対策

英 語

大問3問とリスニングの構成。文法適語選択、長文読解、対話文で構成されている。長文読解は、教科書レベルの単語力で前半の文章はほぼ読める。しかし後半は教科書+aが必要になるので、しっかり語彙力をあげることが重要である。作文が出題されるが、基本的に語彙力と文法力が備わっていれば対応可能なので、語彙力の向上を優先に。

数 学

大問は3~4問で構成。図形問題は多くの大問で出題されるので、きっちり対策をすること。図形の証明問題は頻出単元だが、基本レベルの問題である。関数の問題は図形との混合などの難易度が高い問題が頻出。大問1は計算問題なので、ここで点数を稼ごう。問題数があるので、時間を測定して過去問演習を繰り返そう。(目標は35分以内で解き終わること)

国 語

大問4問で構成。記述の出題数は1題だが、要約で80文字以上という条件があるので、内容を適切にまとめつつ、長文を書くことに慣れておく必要がある。愛知県の特徴として、日常的に触れることの少ない語句が出題される場合が多いので、語彙力を鍛える必要がある。古文に関しては題材がマイナーな傾向が強いが、文法をおさえれば対応できる。

理 科

大問6問で構成。各分野全ての問題が出題されるが、地学は他の分野に比べると少ない。実験や観察が重視されているため、用語や結果を覚えているだけでは対応できない問題が多い。実験や観察に関わる単元は、器具の使い方を含めて、特に重点的に対策することが必要。出題量が多いので、暗記分野に時間をかけない等、時間配分に気をつけよう。

社 会

大問6問で構成。選択問題がほぼすべてを占める。地理は資料に関する問題が多く出題されるため、資料集にも必ず目を通しておくこと。また産業と土地の関係は必ず理解しておく。歴史は年代だけではなく、地理関係も含めて、整理する必要がある。時事問題はほぼ出題されず、公民は基礎項目のみなので、公民で必ず得点すること。